



Title	蓼沼謙一名誉教授略年譜
Author(s)	
Citation	一橋論叢, 99(3): 433-436
Issue Date	1988-03-01
Type	Departmental Bulletin Paper
Text Version	publisher
URL	<a href="http://doi.org/10.15057/11191">http://doi.org/10.15057/11191</a>
Right	

蓼沼謙一名誉教授略年譜

大正十二年(一九二三)

一月二六日 蓼沼隆三、同セイの第一子として茨城県水戸市紺屋町に生まれる

昭和五年(一九三〇)

四月 水戸市浜田小学校入学(第五学年以降は、学区制施行により竹隈小学校に転校)

昭和十一年(一九三六)

一月 蓼沼義一(セイの兄)、同繁枝の東京市牛込区(現、東京都新宿区)市ヶ谷田町の家に寄留し、近くの長延寺小

学校に通うこととなる(市ヶ谷加賀町にあった東京府立第四中学校受験のため)

三月 長延寺小学校卒業

四月 東京府立第四中学校(現、都立戸山高校)入学

昭和十三年(一九三八)

二月 義一死去。その後も繁枝に養われて生徒・学生生活を送り、戦後繁枝の養子となる

昭和十五年(一九四〇)

三月 東京府立第四中学校第四学年修了

四月 東京商科大学予科入学

昭和一七年(一九四二)

九月 同右修了

一〇月 東京商科大学学部進学。吾妻光俊教授のゼミナール(当時は民法のみ)に所属

昭和一八年(一九四三)

二月 学徒動員・臨時召集により横須賀第二海兵团に入団。

昭和一九年(一九四四)

二月 第一期飛行専修海軍予備学生。艦爆(急降下爆撃機)操縦士。

二月 海軍少尉

昭和二〇年(一九四五)

四月 沖繩作戦で神風特攻隊に選ばれ、九死に一生を得る

八月 海軍中尉

九月 召集解除

一〇月 復学、吾妻ゼミナール(民法、労働法)に所属

昭和二二年(一九四七)

四月 高等文官試験(行政科)合格

九月 東京商科大学卒業

一〇月 東京商科大学大学院特別研究生

昭和二七年(一九五二)

四月 一橋大学法学部専任講師

昭和三〇年（一九五五）

五月 日本労働法学会理事（現在に至る）

昭和三一年（一九五六）

一二月 一橋大学法学部助教

昭和三七（一九六二）

一月 一橋大学法学部教授

昭和三八（一九六三）

九月 財団法人一橋大学後援会の援助により、国際労働法社会保障学会に出席、ILOおよび欧州諸国の大学を視察して二月帰国

昭和四〇年（一九六五）

一二月 一橋大学中和寮寮監（昭和四二年一二月まで。当時のいわゆる寮闘争に際し）

昭和四四年（一九六九）

三月 一橋大学学生部長（昭和四六年三月まで。当時のいわゆる大学紛争に際し）

昭和四六年（一九七一）

三月 労働法学研究のため、ILOおよび欧州諸国に出張（昭和四七年三月まで）

昭和四八年(一九七三)

四月 一橋大学評議員(昭和五一年四月まで)

昭和四九年(一九七四)

四月 日本労使関係協会理事(現在に至る)

五月 一橋大学法学部長(昭和五一年四月まで)

昭和五一年(一九七六)

四月 日本労働法学会代表理事(昭和五二年九月まで)

昭和五二年(一九七七)

七月 一橋大学学長(昭和五五年七月まで)

昭和六二年(一九八七)

三月 一橋大学を定年退官

四月 一橋大学名誉教授

本号一五〇頁 四行目に次の誤植がありますので、訂正いたします。

(誤)

(正)

昭和四九年（一九七四）

四月

日本労使関係協会

日本労使関係研究協会